

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1691600108
法人名	株式会社マクロ・コム・ジャパン
事業所名	グループホーム逢の希
所在地	富山県中新川郡上市町上経田5-1
自己評価作成日	令和4年3月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和4年3月18日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者各々が、家庭に近い状態で穏やかに日々笑顔で生活できるよう支援を行っています。 ・個別レクやリハビリ、2ユニット合同で行う体操や脳トレや合唱を行い、入居者同士の交流を深め、メリハリある日常生活をしていただいております。 ・相ノ木地区の住民との交流及び行事の参加を積極的に行っています。 ・中庭での野菜菜園で育て収穫の楽しみを身体で体感、季節や気候に合わせた外出の支援を実施しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>開設時に作成された基本理念は、玄関と各ユニットに掲示し、毎月の会議で唱和共有されている。反面、施設長や職員は理念の具現化等、自らの不十分さを包み隠さず自己評価している。事業所では、運営の基本ともいえる、利用者支援の丁寧な記録、整理された個々の介護計画、ヒヤリハット報告、毎月発行の家族向け便り、運営推進会議の開催と報告の開示等について確認することができ、それは誠実な取り組みの成果でもある。コロナ禍でなお、自治会主催の地域活動に参加し、工夫をしながら利用者の外出支援を行っている。栄養士でもある施設長は、委託先と栄養管理等についてきめ細かいやり取りをするなど、職員の能力とチームワークが活かされた運営に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	繋げているとは言い難い。 理念唱和はカンファレンスのみ。理念に沿ったケアを実施している職員は少数である。	設立当初に作成した4つの基本理念は、玄関、各ユニットに掲示し共有している。職員は、日々利用者支援に携わりながら、唱和だけでは終わらせないよう、尊厳、五感の刺激、地域等のキーワードを認識し、具体的な取り組みに繋げるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍となり、約2年位交流は、ほぼ無くなった。	地元民生委員会が、事あるごとに事業所運営を気にかけてくださり、時間を経て関係が構築されている。回覧板にて情報を得て、地域の草刈り、掃除など地域活動に参加している。コロナ禍の終息後には、保育所、小学校、長寿会等、地域との交流復活が期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同上 地域区長や民生委員の方が理解され、相談に来所されることもある。 現管理者は家族と良好な関係を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事報告書を職員に回覧出来ていない。	隔月開催の会議では、利用者の様子をスライドで見てもらい、入居者状況、運営方針、活動報告、健康管理、ヒヤリハット等について意見交換している。直近の会議は地元公民館で開催し、会議室予約や準備など、メンバーの協力を得て行った。報告書は全家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難ケースは相談して助言をもらっている。 令和3年12月に個別事例検討会の場を地域ケア会議でしていただく。	地域包括支援センターとは、運営推進会議にて事業所の活動を共有し、運営等について、いつでも相談できる体制がある。昨年末の困難ケース検討会議では、各事業所の枠を超えて、客観的、理性的に解決の方向を模索することができるなど、連携・協力関係が結実した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる 勉強会 2回/年 委員会 1回/2か月	委員会は、2か月に一度実施している。具体的な言葉づかい、声かけの仕方などについて気づきを得るよう話し合い、委員会の内容についてはカンファレンスにて共有している。年2回の勉強会では、不適切ケア等について、職員各自が、振り返りシートで自己を見つめ、外部研修会の資料をもとに学んでいる。	委員会の内容は記録されており、研修会も確実に実施されている。全職員が共有できるよう、書式の更なる工夫に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めているが、内出血等みられる入居者がいる。原因追及未実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を契約時にしているが理解されていない部分もあると思う。 説明時言葉を代えて分かりやすく説明していると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特にない。	利用者が発する言葉、仕草などを汲み取り、個人記録に記載し、モニタリング、介護計画作成等に繋げている。面会がままならない状況下だが、できる限り家族の意見を聞くよう努め、随時、電話で家族と連絡をとりあっている。家族の言葉は連絡ノートにて共有し、反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員に意見を聞いていない、聞いてくれない。	月1回の職員ミーティングで話し合っている。管理者は、職場のローテーションに入り、職員とともに利用者支援に携わり、感染対策、シフト調整、物品請求など、職員のダイレクトな声を日常的に聞きながら、優先順位や緊急性を考慮し、職員意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境はよくない。代表者は職員一人ひとりの行動実績をみていない。管理者に聞き取りすることもせず。 賃金水準が平等であるとは思えない。 職員不足である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足で研修を受ける状況ではない。管理者は休みを利用して研修に参加している。 研修参加しても有給消化された職員がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	しているとは思えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設長(管理者)、ケアマネジャーが努めている。入所前に自宅面接や居宅等からの調査を行い要望を聞いている。入所後も家族や本人との関わりを深めながら行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長(管理者)、ケアマネジャーが努めている。利用申込の段階で困りごとや不安なことを確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めているが、現状は中々難しい。情報(アセスメント)から考えながら支援しているが他職員がどのように考えているかわからない。チームで考え、統一したケアが必要だと思う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築く努力はしている。出来ているかは不明。介護者という立場が出てしまうことがある。生活・暮らしという場面を忘れて業務優先になっているような気がする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築く努力はしている。受診時などに家族様と関わる際、気を付けている。コロナ禍で面会等難しく、中々来所される機会が少ない。月次報告・お便り(一ヶ月の活動写真)を送付。状態変化や不穏時に家族へ連絡報告を行っている。不穏時は外出協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍となり、約2年位ほぼ無くなった。住んでいたところを車で通る、馴染みの美容院へ行くこともある。居室には家族写真を飾る、届いたハガキや手紙を置いている。	毎月、本人の状況や笑顔の写真を個別の「逢の希だより」に掲載し、家族に送付している。近況を知るため、便りを楽しみにしている家族も多い。感染防止対策のもと、継続して馴染みの美容院に出かけ、花見、紅葉狩り、地元神社、素麺処、ドライブインなどの外出を楽しむことができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努力しているが、実際は出来ていない。入居者同士がうまくいかない時は仲裁に入るなど配慮している。おやつ作りやレクリエーション、行事等で入居者同士関わる時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ていない。 同じ町内で顔を合わせたりした際に現状を伺い、相談に乗ることはある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努力し寄り添っているが出来ているとは言えない。 本人希望に添えない事もある。アセスメント・プランに沿って介護している。色々な場面において昔のことを聴いたり、どんな風にして欲しいか要望を聞いて対応するようにしている。 本人の希望に添えない事もある。	入居時、本人の思いや家族の意向を把握し、アセスメントの内容は職員間で共有し、支援に活かすよう努めている。また、日々思いや意向を把握するため、一人ひとりに寄り添いながら、利用者の状態に合わせ、小型ホワイトボードやラミネート加工したカードなどを用い、利用者との会話を円滑に行うことができるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努力しているが出来ているとは言えない。 把握しきれず、曖昧なところもある。なるべく元の生活と変わらないスタイルを送らせてあげたいと思っているが現実難しい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努力しているが出来ているとは言えない。 特変や異常があれば直ぐに管理者に報告連絡相談をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いはしているが人員不足のため出来ていない。 月1回ユニット毎のミーティングを開催し、一人ひとりについて話し合う場を設けている。その意見を実践、プランに反映させていると思う。	入居時より、1か月、3か月の暫定プラン後、状態に大きな変化がなければ概ね6か月ごとにプランを見直している。計画立案時には、日々の記録を振り返り、スタッフミーティング、家族・利用者を含めた担当者会議で話し合うなど、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	努めている。介護計画の見直しに活かしている。 記録する際はS;本人の言葉、O;本人の行動を記録するようにしているが、その時対応した職員のA;アセスメント、P;プランまでの記録が出来ていない。 職員間の申し送りが出来ていない事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組む努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	困難事例に対しては地域資源を活用している。安全面を考えながら支援しているが、楽しむまで出来ていない気がする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は受診票で状態を伝えている。必要時、受診同行(管理者)が行う。	利用者は、入居前からの主治医をほぼ継続してかかりつけ医としている。定期受診は家族の付き添いを依頼し、事業所からの連絡表を持参してもらっている。家族対応が無理な場合や緊急時は職員が受診同行している。看護師、薬局薬剤師等との連携もあり、適切な医療に繋げている。	家族付き添いの受診時に持参する連絡票について、個々の状態が、かかりつけ医や付き添い家族により適切に伝わるよう、工夫を期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことは相談している。通常と状態変化があれば連絡相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ているとは思えないが努力している。施設長(管理者)、ケアマネジャーがしている。施設長(管理者)が関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来ているとは思えない。重度化していても行動に移すのが遅い。	「看取りに関する指針」を整備し、入居時に説明している。事業所として、本人の最期をその人らしく看取るため最善を尽くす、ということを基本としている。これまでに数人の利用者を看取った実績がある。その時ごとに勉強会を行い、本人にとって最善の支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員となると出来ていない。出来る人出来ない人の差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	身についてはいないが地域との協力体制を築いている。避難訓練の実施 年2回(地域の方も参加している)。	年2回、夜間、日中想定火災訓練を実施し、内1回は消防の協力を得ている。区長、民生委員、町会議員等が参加し、火災時における玄関への避難経路を確認している。飲料水、缶詰の備蓄がある。地震対策の訓練は実施していない。水害対策は、運営推進会議等で検討している。	災害時の避難経路として、玄関を想定しているが、例えば裏庭のフェンスにも避難経路を確保するなど、より実効性のある取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々心がけているが、時々忙しさのあまり出来ないことがある。 一部ありえない言葉かけ対応している職員がいる。	身体拘束等適正化のための委員会・研修会の中で、プライバシーについての研修を実施し、不適切と思われる言葉づかいやケアについて、各自が振り返っている。言葉かけや利用者への対応についてはそのつど、管理者が気づきを促し、皆で話し合い実践に繋がるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞いているが支援出来ない時もある。 業務が多く、一人ひとりのペースを大切に出来ない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの支援はしているが、おしゃれまで支援出来ない。 職員と欲しい服を買いに出かけた方もいる。 令和4年2月に女性入居者誕生日に化粧をしての写真撮影を実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今は職員だけで準備や片付けをしている。 以前は盛付けや片付け等をしてもらっていたが、衛生面も考慮して今はしていない。	業者から宅配される調理済みの食材を利用し、利用者に提供するタイミングで再加熱し、盛り付けしている。誕生日に合わせた食事は、事業所で作った特別感のある献立とし、皆で楽しんでいる。また、今年度もケーキや白玉を手作りしたり、ラーメン屋へ外出したりすることができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分管理、食事摂取量の管理を行っている。 便秘解消のため、牛乳+オリゴ糖や水分摂取を拒む方にはお茶ゼリーやスポーツドリンクゼリーの提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後している。 拒否された時は、時間をおいて再度声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	努めている。 個々の排尿リズムを把握し定時に誘導している。 排便コントロールをしている。	個人記録の排泄チェック表を確認し、個々のパターン、排泄時間等を把握しながら、声かけや誘導をしている。声かけの際には、心してプライバシー保護に努めている。排便や、水分・食事摂取の状況を適切に把握し、低栄養への配慮や排泄が心の安定にも繋がるよう、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	努めている。 牛乳・オリゴ糖の提供。 薬に頼る事もあるが飲み物の工夫はしている。 運動は出来ているとは思えない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応決めるも曜日は変更あり。 時間は午前中であれば対応している。その人に合わせている。 令和4年2月に夜間入浴の実施施行。	入浴は365日、いつでもできるよう体制をつくっている。基本的には中2日を開けたタイミングでの入浴としているが、回数等は柔軟に対応している。年に数回、近所の方が持参してくれる、ゆず、りんご、薔薇の花びらを湯船に浮かばせて楽しむ入浴は、至福のひとつとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今まで家庭で使用していた寝具等を持参して頂き環境の変化を少しでも解消するようにしている。 職員間で報連相をして、安眠された情報を実践してみている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。 体調変化に伴い、薬が変更になった際は細かく記録を残すようにしている。 調剤薬局との連携もあり、薬剤師と常に連絡を取り合い相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ない事もあるが努めている。 レクの企画や実行、ドライブや買物、軽作業(洗濯物たたみ・水やり・掃除等) 一人ひとりに合わせた個々のレク材の提供。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人数や体制。 コロナ禍で外出はしていないが、今までは外出支援したこともある。 リモート設備がない為、家族と関わることも今は困難。	帰宅願望のある利用者の願いを叶えるため、職員と一緒に自宅に帰ったり、近所を散歩したりと気分転換を試みている。花見、そうめん処へのドライブ、紅葉狩り、行きつけの美容院、希望のラーメン店、近所の神社への初詣等、感染防止を図りながら、さまざまな外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者1名のみ自己管理している。 使用する際は、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を送る。 入居者が家族と電話することはあまりないが、時々声を聞くのみに交代することがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	努めているが、居心地が良いかどうか不明。 毎日、職員が掃除を行い整備に努めて環境配慮している。	利用者と職員が日常生活を共に楽しんでいる様子が伺え、気取りのないアットホームな雰囲気が感じられる。縦長のリビングには小上りの和室があり、洗濯物を畳むなどに利用し、そこではゆっくりと外の景色を眺めることもできる。天気の良い日には、中庭に面したデッキに出て日向ぼっこする利用者の姿がある。また、中庭には畑がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場をみて対応している。 座席の配置配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しているとは言い難い。 馴染みのものを持参している。	何を持ち込んでもよいこと、季節ごとの衣替えをして欲しいことを入居時に利用者・家族に伝えている。各居室は、家族からの手紙、作品や写真がにぎやかに飾られている居室や、清潔に整えられたシンプルな居室など一人ひとりの個性や思いが反映されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫しているところもある。 安全な環境には常に配慮しているが一人ひとりに合った工夫と言う点では出来ていない所もある。 自立度が下がっていく人が多い様に思う。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム逢の希

作成日：令和 4 年 3 月 31 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I 1 (1)	基本理念は、玄関・各ユニットに掲示し共有している。 毎月カンファレンス時に唱和をしている。	尊厳・五感の刺激、地域等のキーワードを職員がしっかり理解し行動ができる。	具体的な取り組みを現在支援しているケアにも理念の意味を盛り込んだものにしていく。	6ヶ月
2	I 6 (5)	身体拘束をしないケアの実践で、年2回の学習会や2か月に一度の委員会を実施しているが、今一度浸透性がないような気がする。	委員会や学習会に職員が意欲的に興味を示すようなものにする。	①委員会の記録は、全体回覧とする。 ②勉強会は、今までトップダウン式であったが、職員へ勉強会担当制にして職員一人ひとりの意識向上につなげる。	6ヶ月
3	III 23 (9)	一人ひとりの思いや希望、意向、家族の意向把握が出来ているとは言えない状況である。	本人の思いや希望・意向、家族の意向を把握できる。	①アセスメント内容は職員間で共有する。 ②本人の歴史にも目を向けてケア実践する。 ③様々な角度から本人を中心としたケア対応を行う。 ④より安心感を得ながら自立生活が送れるよう支援する。	12ヶ月
4	III 35 (13)	災害時避難経路が職員間で不明確で不安がある。	避難経路の確保が出来る。	玄関以外の避難経路の検討を行う。 中庭(畑)避難する際のスロープ、フェンス仕切りを開閉できる物。実効性のあるものにする。 近隣の方々が協力しやすい環境をつくる。	18ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。